

平成 26 年度 部長マニフェスト（評価及び検証）

## 生涯学習部 部長マニフェスト（評価及び検証）

重点課題 ①

自己評価

誰もが学びたいときに学べる学習機会の提供

概ね達成

★何を目指すのか、目指すべき方向は？

（評価日）平成26年12月31日

### 戦略課題の目標

子どもから高齢者まで、ライフステージや市民ニーズに応じた多様な学習内容や学習環境を整えるとともに、学習により習得した知識や技術を地域に還元できる地域社会をめざします。

### セルフレビュー（自己点検）

ライフステージや市民ニーズに応じた多様な学習事業を実施すると共に、生涯学習事業に関する情報を広く市民に提供し、学習環境の整備に努めました。

公民館講座及び市民文化祭の目標数値については、市民文化センター改修工事や台風 19 号による影響により市民文化祭の一部が中止になるなど、いずれも目標数値を上回ることが出来ませんでした。図書館情報をフェイスブックやツイッターなどで PR する新たなサービスを導入するなど、「戦略課題の目標」は「概ね達成」出来たものと考えております。

## ★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

## 施策推進上の目標

## ○ライフステージに応じた学習需要への対応

- 子どもたちの豊かな心を育むため青少年講座を開催します。
- 子どもから高齢者まで市民ニーズに応える充実した公民館講座を開催します。
- 図書館ボランティアと連携し、「読み聞かせ」や「紙芝居」などをおこなう幼児向けの「お話し会」を開催します。

## ○今日的課題やニーズに対応した学習需要への対応

- 子どもの「生きる力」を伸ばし、地域の大人がサポートすることにより、地域で子どもを育てる気運の醸成を図るため、「通学合宿」を実施します。

## ○学習成果を生かせる環境の整備

- 市民文化祭を開催します。

## ○情報提供の充実

- 「かしわら生涯学習情報ニュース」の充実を図ります。
- 「広報かしわら」での情報提供の促進を図ります。

## 取組結果・実施状況

## ○ライフステージに応じた学習需要への対応

- 青少年を対象に体験型の青少年講座を4講座のべ16回開催いたしました。
  - 「つり入門講座」：7回実施（6月～9月）
  - 「昆虫観察講座」：4回実施（7月～8月）
  - 「星空観察講座」：2回実施（3月・8月）
  - 「トレッキング入門講座」：3回実施（7月～10月）
- 平成26年度公民館主催の開講講座は、公民館講座(春・秋期)8講座(書道・生花・押し花・水墨画・陶芸・ペン習字・お菓子作り・茶道)、教養・基礎講座13講座(語学・囲碁・着物・パソコン等)、大阪教育大学教授等による教養講座4講座を実施(1・2月開講予定分を含む)しました。今年度は新たに大阪教育大学の教授を講師として「初歩からのドイツ語講座」や、関西大学の教授を講師として「俳聖・松尾芭蕉を学ぶ」を開催しました。
- 図書館ボランティアと連携した幼児、児童を対象とした「お話し会」(紙芝居、読み聞かせ等)の実施状況は、柏原図書館 計19回 参加人数334人、国分図書館 計18回、参加人数224人で、総計37回、548人の方々に参加していただきました。またオアシスで行っておりますブックスタート事業につきましては12月末現在

計 18 回 385 人の乳幼児及びその母親に対して実施致しました。

○今日的課題やニーズに対応した学習需要への対応

■ 柏原市農業総合地域センターにおいて、9月7日から9日まで国分小学校、国分東小学校の高学年を対象に、「通学合宿」を実施し、26名の生徒が参加されました。

○学習成果を生かせる環境の整備

■ 市民文化祭は、10月11日から19日（台風のため13日から15日は中止）まで開催しました。市民文化センターでは書道・生花・手工芸等の展示を中心に、軽食・喫茶コーナーを開催しました。またリビエールホールを会場として式典とお茶席を実施するとともに、音楽、歌謡、芸能の舞台部門を中心とした発表が行われました。その他に短歌・俳句の文芸、囲碁、史跡めぐりなど幅広いジャンルにわたって、市民の日ごろの研鑽の学習成果を発表できる市民文化祭となりました。

○情報提供の充実

■ 「広報かしわら10月号」において、「かしわら生涯学習情報ニュース」発行のお知らせを行いました。

■ 青少年講座の周知については、広報以外にも教育機関の協力を得、対象となる生徒に要綱等を配布し、参加者増に一定の効果을あげました。

## ★その取組により、何をどのような状態にするのか？

## アウトプット

ライフステージに応じた多様な学習機会を提供します。

- 青少年講座受講者数：220 人
- 多様なニーズに対応した公民館講座を開催します。  
受講者数：500 人
- 学習成果を発表する市民文化祭を開催します。  
参加者数：17,000 人
- 柏原図書館及び国分図書館において幼児向けの「お話し会」「紙芝居」を開催します。  
参加人数：1,800 人
- 図書館サービスを充実します。  
図書の貸出冊数：450,000 冊  
貸出人数：125,000 人
- 多様なニーズに対応した図書館行事を開催します。  
参加者数：5,000 人
- リビエールを利用した市民参加型イベントを開催します。  
入場者数及び参加者数の計：5,300 人
- 情報提供の充実を図るため、「かしわら生涯学習情報ニュース」の下半期全戸配布をめざします。

## 取組結果・実施状況

ライフステージに応じた多様な学習機会の提供

- 青少年講座受講者数：240 人
- 公民館講座 受講者数：400 人  
\*市民文化センター改修工事等により、教養講座が例年に比べ2講座少なくなったため、目標達成とはなりませんでした。
- 市民文化祭 参加者数：11,302 人  
\*台風19号の接近により13日から15日までの3日間全ての行事が中止となったため、目標達成とはなりませんでした。
- 柏原図書館、国分図書館における幼児、児童向けの行事（お話し会、紙芝居等）  
参加人数：柏原図書館 1,225 人  
国分図書館 976 人  
計 2,231 人（12月末現在）  
\*柏原・国分両館で77回実施
- 図書館サービスの充実（12月末現在）  
図書の貸出冊数：柏原図書館 165,045 冊  
国分図書館 165,756 冊  
計 330,801 冊  
貸出人数：柏原図書館 47,152 人



国分図書館	44,592 人
計	91,744 人

● 図書館行事（12月末現在）

参加者数：	柏原図書館	1,704 人
	国分図書館	1,597 人
	計 91 回	3,301 人

● リビエールホールを利用した市民参加型イベント（わくわくフェスタ・クリスマスコンサート）を実施しました。

参加者：わくわくフェスタ⇒3,997 名

クリスマスコンサート⇒1,310 名

● 「かしわら生涯学習ニュース」の下半期全戸配布は、実現できませんでしたが、10月号「広報かしわら」において、配布場所等を掲載して下半期ニュースの発行のお知らせを行いました。4月と10月に「かしわら生涯学習情報ニュース」を3,500部ずつ発行し、各事業所に配布するとともに町会の回覧板で多くの市民に周知できるよう区長会に依頼しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトカム

いつでも、どこでも、だれでも学習できる地域社会の実現をめざします。

- ◆本市の「生涯学習」に対する平成 26 年度市民意識調査  
：満足度 $\geq$ 重要度

### 取組結果・実施状況

おおむね目標値を達成することができましたが、天候や工事などのため、公民館における一部事業について、残念ながら目標値を達成することはできませんでした。

- ◆本年度実施いたしました市民意識調査では、満足度 3.16p 重要度 4.06p で、満足度が重要度を上回るこができませんでした。満足度は前回調査より 0.45p アップし、また重要度との乖離幅も縮小できました。

(評価日) 平成27年1月31日

市長評価

(B) 奨励 : 頑張って目標を達成し、満足できる結果である。さらなる向上を目指してもらいたい。

市長のコメント

- ・生涯学習メニューについて、単なる前年踏襲ではなく、集中化など精査すること。
- ・運用が始まる自然体験学習施設の運営コストの縮減に努めること。

(作成日) 平成27年2月27日

行政評価委員会のコメント

- ・「戦略課題の目標」から「アウトプット」に至る全ての項目において論理的、定量的に記述されているため、実施状況の「さま」が良く理解できた。また、アウトカムは、満足度と重要度の2指標で評価されているので市民目線の評価と判断する。
- ・アウトカムの評価策について、投資効果を見るのも一手法かと考える。投資効果＝満足度／投資額（投資額の見極めを算出するために）
- ・ニーズにあった学習機会の提供をお願いします。
- ・長期間継続している講座については、常にマンネリ化の危険が潜んでいる。適宜、講座内容を見直して新しいものに取り組みたい。

(作成日) 平成27年3月27日

今後の取組の方向性など

幅広く情報収集や意見収集を行い、市民ニーズの把握にさらに努めて参りたい。



## 重点課題 ②

## 自己評価

## 誰もが気軽に楽しめる生涯スポーツの提供

達成

## ★何を目指すのか、目指すべき方向は？

(評価日) 平成26年12月31日

## 戦略課題の目標

健康への関心が高まる中、市民のスポーツによる健康増進を進めるため、スポーツが健康増進や体力向上にもたらす効果など、スポーツの重要性に関する情報を提供するとともに、誰もが身近な地域で気軽にスポーツに親しむことができる機会づくりをめざします。

さらに、サイクルスポーツなど新たなスポーツの普及をめざし、スポーツによる街の活性化をめざします。

## セルフレビュー（自己点検）

「戦略課題の目標」は一定「達成」できたものと考えております。

具体的には、スポーツフェスティバルでは、障害をお持ちの方にも積極的に参加をPRし、障害者にもやさしい大会運営に努め、また、ニュースポーツコーナー、体力測定コーナー等に幼児から高齢者まで多くの参加者を得ました。

キャンパスマラソンについては、市の歳出予算の削減を図るため、より多くの協賛金の確保を目指し、また将来の有料化を視野に入れ、今年度から大会運営を実行委員会形式に改めました。

そして、サイクルスポーツについては、まちづくり担当部局等と内部検討委員会を立ち上げ、スポーツによる街の活性化に向けた取り組みを始めました。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

○スポーツの推進

- 第2回スポーツフェスティバル in 柏原、第2回柏原シティーキャンパスマラソンを実施します。
- 学校体育施設開放事業を通じて、スポーツの推進を図ります。
- サイクルスポーツの普及に向け、関係部局との検討委員会を開催します。

○スポーツ環境の充実

- 運動広場、体育施設の柔軟な管理運営を図ります。
- 体育館での多彩なスポーツ教室を開催します。

取組結果・実施状況

○スポーツの推進

- 11月8日（土）に「第2回スポーツフェスティバル in 柏原」を実施し、幼児から高齢者まで多くの市民の参加を得ました。また、3月8日（日）に大阪教育大学で実施する「2015柏原シティーキャンパスマラソン」については、前回から完全オープン化しており、他市からの参加者も積極的に受け入れました。
- 学校体育施設開放事業では、より多くの市民に小中学校の体育施設をご利用いただきました。
- サイクルスポーツの普及については、関係部局と普及に向けての検討会を開催いたしました。

○スポーツ環境の充実

- 運動広場、体育施設の運営については、利用予約が入っていないければ前日でも予約受付を可能とするなど、柔軟な対応を図りました。
- 体育館では、指定管理者と連携しスポーツ教室の充実に向けた取り組みを行いました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトプット

ライフステージに応じたスポーツ機会を創造します。

- 「第2回スポーツフェスティバル in 柏原」を開催します。  
参加者数 1,200人（延7,600人）  
参加者にアンケート調査を実施し、次回も参加すると回答した割合：60%以上
- 「第2回柏原シティーキャンパスマラソン」開催します。  
参加者数 1,100人  
参加者にアンケート調査を実施し、次回も参加すると回答した割合：60%以上
- 学校体育施設を利用した生涯スポーツの充実を図ります。  
小学校10校、中学校6校で実施し、年間利用者数：250,000人

### 取組結果・実施状況

ライフステージに応じたスポーツ機会を創造。

- 「第2回スポーツフェスティバル in 柏原」  
参加者 1,372名（延6,321名）  
参加者に実施したアンケート調査の結果、  
「ぜひ参加したい」 69.7%  
「参加したい」 30.3%  
\*開催時間は、総合フェスティバルと同時開催の為、  
昨年度よりも2時間短縮
- 「第2回柏原シティーキャンパスマラソン」  
参加者数：1,131人  
参加者に実施したアンケート調査の結果
- 学校体育施設開放事業  
207,710人（12月末現在）

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトカム

いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現をめざします。

- ◆本市の「スポーツ振興」に対する平成 26 年度市民意識調査  
：満足度 $\geq$ 重要度

### 取組結果・実施状況

目標値を達成できたものと考えております。

- ◆本年度実施いたしました市民意識調査では、満足度 3.24p 重要度 3.85pt で、満足度が重要度を上回ることはできませんでしたが、満足度は前回調査より 0.49p アップし、また重要度との乖離幅も縮小できました。

(評価日) 平成27年1月31日

市長評価

(B) 奨励 : 頑張って目標を達成し、満足できる結果である。さらなる向上を目指してもらいたい。

市長のコメント

- ・「自転車のまち柏原」を推し進めること。このため、自転車のヒルクライム競技を開催できるコースの開発に努めること。
- ・現行のマラソンコースの適否も含め、実施可能なコースの検討を行うこと。

(作成日) 平成27年2月27日

行政評価委員会のコメント

- ・「戦略課題の目標」から「アウトプット」に至る全ての項目において論理的、定量的に記述されているため、実施状況の「さま」が良く理解できた。また、アウトカムは、満足度と重要度の2指標で評価されているので市民目線の評価と判断する。
- ・アウトカムの評価策について、投資効果を見るのも一手法かと考える。投資効果＝満足度／投資額（投資額の見極めを算出するために）
- ・健康とスポーツの関係で記述されているので、健康福祉部と連携した取組等を検討されたい。

(作成日) 平成27年3月27日

今後の取組の方向性など

数多くの関係団体との連携に常に心掛け、スポーツによるまちの活性化をさらに進めてまいりたい。

重点課題 ③

自己評価

地域のつながりによる子どもの健全育成

概ね達成

★何を目指すのか、目指すべき方向は？

(評価日) 平成26年12月31日

戦略課題の目標

子どもの「生きる力」を育成するため、人や自然と触れあえるように、スポーツ、自然体験、生活体験などの機会を創出するとともに、学校、家庭、地域、行政が連携した地域社会をめざします。

セルフレビュー(自己点検)

青少年に体験学習の場を提供すると共に「地域の子どもは地域で守り育てる」を目標として、学校・家庭・地域が協働して青少年健全育成の環境づくりに取り組み、「戦略課題の目標」は「概ね達成」できたものと考えております。

## ★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

## 施策推進上の目標

## ○家庭教育の充実

- 親としてのあり方や子どもとの関わり方について参加者同士で話し合いながら学ぶ「親学習講座」を実施します。

## ○就学前教育の充実

- 市内 5 幼稚園にて、2、3 歳児の親子を対象に、子どもの心身の発達に伴う基本的な学習を行い、親同士のコミュニケーションを図り、地域教育力の向上を目指す為、「親と子のための教室」を開催します。

## ○青少年健全育成活動の推進

- 社会教育団体、青少年育成団体が行う事業や活動を支援します。
- 放課後児童会、放課後子ども教室を実施します。

## 取組結果・実施状況

## ○家庭教育の充実

- 市内小中学校 3 校の PTA、公立幼稚園 5 園で開催している「親と子のための教室参加者」及びオアシスと国分図書館等で一般市民を対象として「親学習講座」を計 20 回開催しました。

## ○就学前教育の充実

- 「親と子のための教室」を各園で 3 歳児は 10 回、2 歳児は 5 回開催し好評を得ました。2 歳児対象コースについては、実施回数を 3 歳児と同様に 10 回開催してほしいと要望が多数あり、今後検討してまいります。

## ○青少年健全育成活動の推進

- 公立小学校 10 校区中 8 校区で、1 年生から 6 年生までを対象とした放課後子ども教室を実施しました。特に玉手小学校における活動は大阪府の研修会でも事例発表に選出されるほど特色があり、参加者からも好評を得ました。
- 市内の全ての公立小学校 10 校で就労等により保護者が昼間家庭に居ない小学生 1 年から 3 年生を対象に児童の健全育成を図るため放課後児童会を開催し、待機児童を出すことなく運営できました。



★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトプット

学校、家庭、地域と連携し、子どもたちの健全育成を促進します。

- 「親学習講座」を開催します。  
受講者数：200人
- 「親と子のための教室」を開催します。  
受講者数：160人
- 「放課後児童会」を運営します。  
加入者数：520人
- 「放課後子ども教室」を開催します。  
参加者数：5,500人

### 取組結果・実施状況

学校、家庭、地域と連携し、子どもたちの健全育成を促進

- 「親学習講座」受講者数：220人
- 「親と子のための教室」受講者数：170人
- 「放課後児童会」加入者数：522人
- 「放課後子ども教室」参加者数：4,200人

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトカム

子どもたちが地域とのつながりの中で健全に育つまちの実現をめざします。

- ◆本市の「青少年の健全育成」に対する平成 26 年度市民意識調査  
：満足度 $\geq$ 重要度

### 取組結果・実施状況

ほとんどの取組みについて、目標値をクリアできましたが、「放課後子ども教室」については、達成することができませんでした。

- ◆本年度実施いたしました市民意識調査では、満足度 3.26p 重要度 4.38pt で、満足度が重要度を上回ることはできませんでした。満足度は前回調査より 0.11p アップし、また重要度との乖離幅も僅かながら縮小できました。

(評価日) 平成27年1月31日

市長評価

(B) 奨励 : 頑張っていて目標を達成し、満足できる結果である。さらなる向上を目指してもらいたい。

市長のコメント

- ・新しい部局「こども未来部」に移管する事務事業について、利用者に迷惑等のかかることが無いよう取り計らうこと。

(作成日) 平成27年2月27日

行政評価委員会のコメント

- ・「戦略課題の目標」から「アウトプット」に至る全ての項目において論理的、定量的に記述されているため、実施状況の「さま」が良く理解できた。また、アウトカムは、満足度と重要度の2指標で評価されているので市民目線の評価と判断する。
- ・地域社会のニーズに合った事業展開を期待する。

(作成日) 平成27年3月27日

今後の取組の方向性など

幼児、子どもの幅広い健全育成にさらに工夫を凝らしながら取り組んでまいりたい。

## 重点課題 ④

自己評価

## 文化財を守り、次世代へと継承する仕組みづくり

一部達成

★何を目指すのか、目指すべき方向は？

(評価日) 平成26年12月31日

## 戦略課題の目標

地域で長い年月をかけ育んできた貴重な歴史文化資源を再認識し、市民が地域の誇りとして今後も守り伝えていく意識を持てるよう、適切に調査、保全するとともに、市民だけでなく多くの人たちが関心を持てるような環境づくりをめざします。

## セルフレビュー（自己点検）

市立歴史資料館での活動（企画展、市民歴史大学、文化財講座、体験教室等の開催）や史跡高井田横穴の特別公開、市内文化財の説明板設置等を通じて、引き続き、文化財保護と歴史にふれることの楽しみについての啓発を行いました。

併せて、公式ホームページや新聞、雑誌などでの情報発信にも努め、多くの人たちが関心を持てるような環境づくりに取り組みました。

また、文化財保護審議会への諮問・答申を経て、市の文化財保護条例に基づく文化財指定を行い、貴重な文化財の保護に取り組みました。

このような活動を通じ、戦略目標の成果は着実にあげつつあると考えます。ただし、文化財の保存と活用は、終わりのないテーマであるところから、今後も引き続いて諸施策を展開していく必要があると考えられますことから、「戦略課題の目標」は「一部達成」と考えております。

## ★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

## 施策推進上の目標

## ○文化財の保存と活用

- 史跡鳥坂寺の保存と活用について、専門の研究者による「鳥坂寺跡整備検討委員会」を中心に、引き続き検討を進めます。
- 郷土の歴史を広く内外に周知するため、歴史資料館の企画展を開催するほか、講座、講演会、体験学習、出前講座等を実施します。

## ○文化財に関する知識普及と啓発の推進

- 貴重な文化遺産に親しむことで文化財への理解を深め、郷土への愛着を一層育んでもらうため、史跡の公開を実施するなど啓発に努めます

## 取組結果・実施状況

## ○文化財の保存と活用

- 史跡鳥坂寺跡の保存と活用について、「鳥坂寺跡整備検討委員会」で、史跡保存管理計画の策定に着手しました。
- 12月31日までに、歴史資料館の企画展（2回）、文化財講座（8回）、市民歴史大学（1回）、体験教室（1回）を開催しました（今年度末までに企画展計4回、文化財講座計12回、歴史大学計3回、体験教室計2回の開催を予定）。出前講座（4回）と出前授業（2回）も併せて、実施しました。

## ○文化財に関する知識普及と啓発の推進

- 史跡高井田横穴特別公開（2回）を実施しました。
- 市の公式ホームページのリニューアルに併せ、文化財課ホームページでの情報発信をさらに活発化すべく、報道機関へのニュース提供とは別に「文化財コラム」の掲載頻度を高め、4月～12月の間に計28本のコラムをアップしました。（平成25年度までの総アップ数は計9本）

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトプット

文化財の保存と活用を促進します。

- 鳥坂寺跡整備基本計画（案）の最終提言を目指し、検討委員会から提言をいただきます。
- 歴史資料館の企画展を年 4 回開催します。  
参加者数：17,000 人
- 史跡高井田横穴の特別公開を年 2 回実施します。  
参加者数：300 人

### 取組結果・実施状況

文化財の保存と活用

- 鳥坂寺跡整備基本計画（案）の第 1 次提言を検討委員会から平成 26 年 3 月にいただきました。今後、市の財政状況等も勘案しながら、国や府とも協議を続け、最終提言を得て、整備着手を目指すこととなります。当面は、史跡の保存管理計画の策定を目指します。
- 12 月 31 日までに歴史資料館の企画展を 2 回開催しました。（年度末までに計 4 回開催予定。4 回目は、今年度末から来年度初めにかけて開催）  
参加者数：12,872 人（2 回分の合計）
- 史跡高井田横穴の特別公開を 2 回実施しました。  
参加者数：248 人（5 月・140 人、10 月・108 人）

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトカム

市民が地域を誇りとする街づくりをめざします。

- ◆鳥坂寺跡の史跡公園化が進捗します。
- ◆本市の「文化財の保護」に対する平成 26 年度市民意識調査  
：満足度 $\geq$ 重要度

### 取組結果・実施状況

柏原市の歴史遺産に係る各種講座、講演会等を積極的に行い、柏原市の魅力の発信に努めましたが、高井田横穴特別公開につきましては、残念ながら目標値を達成することはできませんでした。

- ◆史跡公園化のための「整備基本計画」の第 1 次提言を経て、当面課題としての史跡保存管理計画の策定に着手するなど、着実に進捗しています。
- ◆本年度実施いたしました市民意識調査では、満足度 3.47p 重要度 3.89pt で、満足度が重要度を上回ることはできませんでしたが、満足度は前回調査より 0.24p アップし、また重要度との乖離幅も僅かながら縮小できました。



(評価日)平成27年1月31日

市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと踏ん張り。今後に期待する。

市長のコメント

- ・ 歴史資料館の耐震、老朽化の状況について確認するとともに、施設利用の有料化についても検討すること。
- ・ 柏陽庵の利用状況や施設の老朽化状況などを踏まえ、今後のあり方について検討すること。

(作成日)平成27年2月27日

行政評価委員会のコメント

- ・ 「戦略課題の目標」から「アウトプット」に至る全ての項目において論理的、定量的に記述されているため、実施状況の「さま」が良く理解できた。また、アウトカムは、満足度と重要度の2指標で評価されているので市民目線の評価と判断する。
- ・ 学校教育部で取り組んでいる「柏原学」などと連携すればよいと考える。

(作成日) 平成27年3月27日

今後の取組の方向性など

学校教育との連携を強く意識しながら「柏原学」の推進に取り組んでまいりたい。